

THE WALL STREET JOURNAL.

この記事を複製もしくはプリントアウトして使用する場合は、その用途は個人的もしくは非営利、その他これに準ずる範囲内での使用に限られます。社内での利用、もしくは顧客への配布用として使用される場合は、必ずwww.djreprints.com（英語のみ）で事前に使用許諾を取得して下さい。

<https://jp.wsj.com/articles/fed-tries-to-thread-the-needle-drawing-blood-11667432259>

HEARD ON THE STREET

綱渡りのFRB、金融市場との微妙な掛け合い

米経済の金融化はリスクにも



パウエル氏は利上げ停止の議論は早計と言明した

PHOTO: MANUEL BALCE CENETA/ASSOCIATED PRESS

By *Justin Lahart*

2022年11月3日 08:43 JST

——投資家向けコラム「ハード・オン・ザ・ストリート」

車を止めたいなら、まずは減速するだろう。たとえ、スピードを落としたいだけであっても、同じことをするはずだ。米連邦準備制度理事会（FRB）は、単純に後者のようなことをやろうとしているのだと、懸命に説得しているようだ。

FRBは2日まで開催した連邦公開市場委員会（FOMC）でフェデラルファンド（FF）金利の誘導目標を0.75ポイント引き上げた。これは完全に想定内の決定だ。投資家の関心はむしろ、4回連続で0.75ポイントの大幅利上げを実施した後、FRBが利上げペースを落とすかどうかに集中している。

FRBは今回、利上げ減速に向かうための下地を整えた。政策声明に新たな文言を加え、「金融政策の累積的な引き締め効果と、金融政策が経済活動やインフレに影響するまでには時間差がある点、および経済・金融情勢を考慮する」と強調した。

要点は明らかだ。これまでの引き締めが経済にどのような影響を与えているのかが正確に見極めるには、利上げペースの減速に着手することが理にかなう。ところが、政策声明の公表を受けて、金融市場は反射的に株高・ドル安・長期債利回りの低下で反応した。利上げ減速は利上げ停止への序章だと勘違いした投資家がいたようだ。危険なのは、まさに市場が熱狂し過ぎる恐れがあるということだ。そうなれば、金融環境の緩和へとつながり、結果的にFRBは今まで以上に利上げしなければならぬ状況に追い込まれかねない。

ところが、詳細が伝わるのに伴い、株式市場は一転して下げ足を速め、債券利回りは上昇に転じ、ドルは強含んだ。ジェローム・パウエル議長は会合後の会見

で、利上げ幅が縮小したとしても、ターミナルレート（利上げの終着点）に関するFRBの見通しは、9月会合時点から切り上がる可能性が高いことを明確にした。

パウエル氏はこうくぎを刺した。「（利上げ）停止について検討することは極めて時期尚早だ」

今後も続く問題として、FRBは市場がどう受け止めるのか、かなり目配りする必要がある。これはある意味、FRBが進めている透明性向上への取り組みに伴う副作用とも言える。1994年以前は、金利決定に関する発表すらなく、ましてや当局者による見通しの提供や会合後の議長会見など存在しなかった。さらに言えば、米経済の金融化が進んでいることの裏返しでもある。つまり、FRBの政策判断に対する市場の見方が、これまで以上に強力かつ直接的な影響をもたらすようになっている。

もし、政策会合後の金融市場の反応について、FRBが描く理想像が反応薄だとするならば、2日の動向は完璧には程遠いことを示している。

あわせて読みたい

[FRB、4会合連続で0.75ポイント利上げ ペース減速示唆](#)
[FOMC政策声明](#)
